

2022 年度 RC 活動実績と 2023 年度 RC 活動計画

☆☆☆：目標達成、☆☆：ほぼ達成、☆：一層の努力が必要

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆：「Grow UP 2023」KPI その他：RC 目標)	2022 年度 RC 活動計画	2022 年度 RC 活動実績	評価	2023 年度 RC 活動計画
労働安全衛生 保安防災	<p>労働安全衛生</p> <p>○MGC と協力会社の労働災害撲滅を目指す。労働安全に直接／間接的に影響する要素を様々な評価方法を通じて見える化し、改善への土台を構築する。</p> <p>【2023 年までの労働安全衛生の定量的目標】</p> <p>◆重大労働災害^{*1} 0 件 MGC 本体 休業、通院 3 回以上の不休業 0 件 協力会社 度数率 0.3 以下 強度率 0.003 以下</p> <p>保安防災</p> <p>○事故ゼロの達成を目指す。保安防災に直接／間接的に影響する要素を様々な評価方法を通じて見える化し、改善への土台を構築する。</p> <p>【2023 年までの保安防災の定量目標】</p> <p>◆重大事故^{*2} 0 件 ICCA スコア年間 0; MGC 本体・協力会社とも</p>	<p>労働安全衛生および保安防災目標を達成するため、以下の項目を考慮し、各事業所での課題に合わせ、安全作業・安定運転を目指した効果的な活動を推進する。</p> <p>(1) 自律的な安全活動 (2) 類似労働災害、ヒューマンエラー防止 (3) 協力会社の労働災害削減支援 (4) 自主的な保安活動 (5) MGC 保安防災ガイドラインおよび MOSMS 診断などの評価ツールを活用した改善活動 (6) MGC スマート・ファクトリーの実現、新技術の導入 (7) 保安防災上の危険源の特定および安全を担保する対応（自然災害含む） (8) 教育・訓練</p>	<p>(1) 自律的な安全活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 5S、ヒヤリハット摘出、KY、職場での安全ミーティングに加え、月毎にテーマを変えたキャンペーンの実施、KY 手帳を用いた過去事例の教育、環保ニュースの発行、個人安全宣言、安全対話、安全スピーチなど事業所に合わせた特色ある日常の安全活動に取り組んだ。 TPM 活動の推進により職場主体の安全活動に取り組み、安全パトロールで実施状況の確認を行った。 製造、工務、研究、充填荷役の 4 部門で LINK リーダー会議を開催し、安全管理の手順、事故事例の研究、良好事例を共有し、安全活動の推進を図った。 <p>(2) 類似労働災害、ヒューマンエラー防止</p> <ul style="list-style-type: none"> 「転倒、墜落・転落」「被液」など発生が多い労働災害は、キャンペーンを行い、再発の防止に努めた。 転倒、墜落、転落の危険箇所マップを見直し、表示等の安全対策を実施した。 改善発表会、外部講師による講演会、過去のヒューマンエラー事例や作業手順書の読み合わせ、指差呼称の定着運動等により、ヒューマンエラーの防止に取り組んだ。 <p>(3) 協力会社の労働災害削減支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力会社と災害防止協議会等を開催し、災害事例等の安全情報の提供、安全管理手法や仕組みの提供を行い、協力会社と共に安全な職場づくりに取り組んだ。 安全道場、プロセス道場など会社の教育設備を開放し、構内協力会社社員の教育を行った。工事協力会社への VR 安全体感訓練を開始した。 協力会社から出されたヒヤリハットや改善提案を活用し作業環境の改善に取り組んだ。 	☆☆	<p>各事業所での課題に合わせ安全作業・安定運転を目指した効果的な活動を推進する。</p> <p>(1) 自律的な安全活動 (2) 類似労働災害、ヒューマンエラー防止 (3) 協力会社の労働災害削減支援 (4) 自主的な保安活動 (5) MGC グループ保安防災ガイドラインおよび MOSMS 診断などの評価ツールを活用した改善活動 (6) MGC スマート・ファクトリーの実現、新技術の導入 (7) 保安防災上の危険源の特定および安全を担保する対応（自然災害含む） (8) 教育・訓練</p>

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆:「Grow UP 2023」KPI その他:RC 目標)	2022 年度 RC 活動計画	2022 年度 RC 活動実績	評価	2023 年度 RC 活動計画
			<p>(4)自主的な保安活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去事例から火災や漏洩の対策を再確認し、風化防止と再発防止を図った。 ・製造、工務、研究、充填荷役の 4 部門で LINK リーダー会議を開催し、安全管理の手順、事故事例の研究、良好事例を事業所間で共有し、安全活動の推進を図った。 ・外部腐食管理を計画的に行うことで、漏洩事故、トラブルの再発防止に努めた。 <p>(5)MGC 保安防災ガイドラインおよび MOSMS 診断などの評価ツールを活用した改善活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MGC グループ保安防災ガイドラインを用い、RC 監査、内部監査を行った。 ・MOSMS 診断後に故障原因分析会の開催、予備品管理システム導入を行い、改善活動を継続した。 <p>(6)MGC スマート・ファクトリーの実現、新技術の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SMART-FACTORY 実現に向け、設備管理システムなど導入済みの DX 技術の検証を行うと共に、ドローン、オンライン異常予兆システムなど IoT を活用した保安管理システム工場に取り組んだ。 <p>(7)保安防災上の危険源の特定および安全を担保する対応（自然災害含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による教育、プロセス道場などの社内教育で HAZOP 教育を行った。 ・HAZOP の実施に当たっては、ノード数で進捗を管理し、計画的な HAZOP の実施を推進した。 ・最新のハザードマップを入手し、防災規程の見直しを行った。 ・風水害等の進行型災害に対応するタイムラインの作成に取り組んだ。 <p>(8)教育・訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保全道場、プロセス道場などの社内研修施設を使った教育、京葉コンビと山陽人材育成講座等で体験型研修を行った。 ・VR 体感及びリアル体感が一体となった安全教育を実施した。 ・e ラーニングの導入、オンラインセミナーの活用によりコロナ禍でも教育を継続した。 ・火災を想定した防災訓練、地震、津波を想定したによる避難訓練を行った。 <p>【2023 年までの定量的目標に対する実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Grow UP 2023」KPI <ul style="list-style-type: none"> 重大労働災害 1 件 重大事故 0 件 ・RC 中期計画 2023 の数値目標 <ul style="list-style-type: none"> MGC 本体 休業、通院 3 回以上の不休業 3 件 協力会社 度数率 0.49、強度率 0.044 ICCA スコア年間 8 (MGC 本体 7、協力会社 1) 		

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆:「Grow UP 2023」KPI その他:RC 目標)	2022 年度 RC 活動計画	2022 年度 RC 活動実績	評価	2023 年度 RC 活動計画
環境保全	<p>○企業活動を通じて社会貢献と自然環境の保全の両立を目指す。その結果社会からの評価の向上を得る。</p> <p>【2023 年までの環境保全の定性/定量目標*】</p> <p>(1)◆温室効果ガス(GHG)排出量 *2013 年度比 28%削減 ◆温室効果ガス(GHG)排出原単位*2013 年度比 19.9%削減 ①0.4 万 t-CO2e/年の継続的削減 ②自家発電・ボイラー等の重油の全廃(水島工場、四日市工場) ③購買電力の GHG 排出係数削減(0.45;水島工場) ◆④購買電力の再生可能エネルギー10%導入(全事業所)</p> <p>(2)廃棄物のゼロエミッション ◆*廃棄物ゼロエミッション率**3 0.3%以下</p> <p>(3)PRTR 法届出物質の排出量 *2020 年比 10%削減</p> <p>(4)水資源保全 *水再利用率 95%以上 水リスクの特定(国内製造拠点)</p> <p>(5)生物多様性保全 *生物多様性保全の本箱寄贈 累積 10 件 *生物多様性の「目に見える現場」の設置 1 件</p>	<p>以下の項目に関する Grow UP 2023 KPI および環境保全目標を達成するための各種活動を推進する。</p> <p>(1)地球環境問題への取り組み GHG 排出削減 (低 GHG 排出係数電力、再生エネルギーの導入を含む) 廃棄物削減 水資源保全 生物多様性保全</p> <p>(2)地域環境問題への取り組み 環境に影響を与える要因の継続的改善 (大気、水質、騒音、振動、臭気、PRTR 等)</p>	<p>GHG 排出削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 照明の LED 化、エアコンやポンプなどの高効率機器への置き換え、製造設備の運転条件見直し等、保温保冷やスチームトラップの適正管理、継続的な GHG 削減活動を実施した。 再エネ電力の導入と非化石証書の購入を行った。 <p>廃棄物削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾燥汚泥の発生量削減と肥料としての売却処分、廃棄物の分別回収を徹底し、蒸留してのリサイクル、試作に使用した樹脂の売却処分、触媒から回収した金属の売却処分、燃料化などによる廃棄物削減に取り組んだ。 <p>水資源保全</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定運転と水の再利用により、水資源の効率的使用に努めた。 水使用量を調査し、結果を Web サイトで公開した。 水に関するリスク/機会事例を調査し、調査結果を CDP 水セキュリティ質問書の回答に反映させた。 <p>生物多様性保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ビオトープ建設の為、測量及び生物調査を実施した。 海辺の保全活動、クロマツ苗木の植樹など地域の活動に参加した。 工場周辺の清掃活動を行った。 <p>大気、水質</p> <ul style="list-style-type: none"> スクラバーの設置により大気汚染物質の排出量削減を行った。 廃棄物処理施設から出る排ガスの分析を行い、結果を公表した。 排水の分析を行い、排水処理設備の適切な管理を行った。 <p>騒音、振動、臭気</p> <ul style="list-style-type: none"> パトロールの実施により、騒音、振動、臭気などが発生していないことを確認した。 RC 監査で環境管理システムに問題無い事を確認した。 <p>PRTR</p> <ul style="list-style-type: none"> 除害塔などの設備改善、PRTR 非該当物質への置き換えにより、PRTR 対象物質の排出抑制を図った。 PRTR 法届け出対象物質の排出量を調べ、Web サイトで公開した。 <p>【2023 年までの定量的目標に対する実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Grow UP 2023」KPI 温室効果ガス(GHG)排出量 34%削減 温室効果ガス(GHG)排出原単位 8.6%削減 購買電力の再生可能エネルギー導入率 19% 廃棄物ゼロエミッション率 0.25% RC 中期計画 2023 の数値目標 PRTR 法届出物質の排出量 2020 年比 22%増加 水再利用率 93.7% 生物多様性保全の本箱寄贈 累積 6 件 生物多様性の「目に見える現場」の設置 0 件 	☆☆	<p>Grow UP 2023 KPI および RC 中期計画 2023 に係る以下の環境保全目標を達成するための各種活動を推進する。</p> <p>(1)地球環境問題への取り組み GHG 排出削減 (低 GHG 排出係数電力、再生エネルギーの導入を含む) 廃棄物削減 水資源保全 生物多様性保全</p> <p>(2)地域環境問題への取り組み 環境に影響を与える要因の継続的改善 (大気、水質、騒音、振動、臭気、PRTR 等)</p>

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆:「Grow UP 2023」KPI その他:RC 目標)	2022 年度 RC 活動計画	2022 年度 RC 活動実績	評価	2023 年度 RC 活動計画
化学品・製品安全	<p>○化学品・製品の性状と取り扱い方法を明確にし、全ての取扱者の安全と健康、環境を守る。</p> <p>【2023 年までの化学品・製品安全の定量目標**】</p> <p>(1) 製品開発における安全評価の段階的な実施（継続） **新規製品の上市・市場開拓の審査 100%（製品数%）</p> <p>(2) 取り扱う製品のリスク評価と管理の推進（継続） **製品安全教育 100%（協議会加盟社数%）</p> <p>(3) 各国の化学物質管理法規に基づく申請・登録の確実な実施 **各国の化学物質管理における物質登録 100%（製品数%）</p> <p>(4) SDS 自動作成システムの運用と展開 **安全性情報（SDS）の作成と交付 100%（製品数%）</p>	<p>化学品・製品安全目標を達成するため、自主的な化学品管理の遂行と並行して国際的な管理の仕組みに対して適切に対応する。</p> <p>(1) 各審査を通じた開発物質・製品の安全性評価</p> <p>(2) 取扱い製品に適用される法改正への適切な対応</p> <p>(3) 取扱化学物質に関する安全教育の実施</p> <p>(4) 各国の化学物質管理法規情報の収集および登録制度への対応</p> <p>(5) 国内外の法規に対応した SDS 作成システムの活用および顧客への適切な交付</p>	<p>(1) 各審査を通じた開発物質・製品の安全性評価 ・開発物質の安全性試験を実施し、上市・市場開拓審査で安全性評価を実施した。 ・化審法少量新規登録、安衛法少量新規登録を行った。</p> <p>(2) 取扱い製品に適用される法改正への適切な対応 ・取扱い製品に適用される安衛法改正などの情報を収集し、事業所とグループ会社に配信した。</p> <p>(3) 取扱化学物質に関する安全教育の実施 ・新入社員、営業担当者、事業所の化学物質取扱者を対象に教育を行った。</p> <p>(4) 各国の化学物質管理法規情報の収集および登録制度への対応 ・欧州・英国・韓国・トルコの化学物質登録の為、化学物質の安全性試験等を行い、登録を行った。 ・海外法規制情報提供会を開催し、e-ラーニングを行った。</p> <p>(5) 国内外の法規に対応した SDS 作成システムの活用および顧客への適切な交付 ・SDS 自動作成システムを使い MGC と関係会社の SDS を作成した。改正化管法への対応を行い、改正安衛法対応の準備を行った。</p> <p>【2023 年までの定量的目標に対する実績】</p> <p>・RC 中期計画 2023 の数値目標 新規製品の上市・市場開拓の審査 100%（製品数%） 製品安全教育 100%（協議会加盟社数%） 各国の化学物質管理における物質登録 100%（製品数%） 安全性情報（SDS）の作成と交付 100%（製品数%）</p>	☆☆☆	<p>化学品・製品安全目標を達成するため、自主的な化学品管理の遂行と並行して国際的な管理の仕組みに対して適切に対応する。</p> <p>(1) 各審査を通じた開発物質・製品の安全性評価</p> <p>(2) 取扱い製品に適用される法改正への適切な対応（特に安衛法大改正対応）</p> <p>(3) 取扱化学物質に関する安全教育の実施</p> <p>(4) 各国の化学物質管理法規情報の収集および登録制度への対応</p> <p>(5) 国内外の法規に対応した SDS 作成システムの活用および顧客への適切な交付</p>
物流安全	<p>○物流事故、トラブルの撲滅を目指す。</p> <p>(1) 物流トラブルの解析と水平展開の継続</p> <p>(2) グループ会社物流部門との物流安全情報共有化</p> <p>(3) 届け先荷役作業状況の解析と改善</p>	<p>物流安全目標を達成するため、以下の項目を考慮し、抜け漏れの無い安全管理体制の確立を推進する。</p> <p>(1) 物流上の事故、労災等の解析</p> <p>(2) 充填荷役における労働安全、保安防災</p> <p>(3) 監査やアンケートを通じたグループ物流会社との対話強化</p> <p>(4) 保安協定書の締結率向上</p>	<p>(1) 物流上の事故、労災等の解析 ・トラブルの集計と解析を行い、トラブル情報の水平展開を行った。 ・事業所が輸送部会を通じて構内協力会社に情報提供を行い、物流トラブルの再発防止を図った</p> <p>(2) 充填荷役における労働安全、保安防災 ・充填荷役 LINK を発足し、充填荷役作業における情報交換を行い、労災災害と事故の撲滅に取り組んだ。</p> <p>(3) 監査やアンケートを通じたグループ物流会社との対話強化 ・物流監査を行った。元請 5 社分科会に事業部門を加え、物流品質向上委員会とし、情報交換を促進した。</p> <p>(4) 保安協定書の締結率向上 ・物流システムを活用し保安協定書締結状況を一元管理し、締結の推進を図った。</p>	☆☆☆	<p>物流事故、トラブルの撲滅を達成するため、以下の項目を考慮し、抜け漏れの無い安全管理体制の確立を推進する。</p> <p>(1) 物流上の事故、労災等の解析および解析結果の展開</p> <p>(2) 充填荷役における労働安全、保安防災</p> <p>(3) 監査や各種委員会等を通じたグループ物流会社との対話強化</p> <p>(4) ツール検討など保安協定書の締結率の向上への取組み</p>

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆:「Grow UP 2023」KPI その他:RC 目標)	2022 年度 RC 活動計画	2022 年度 RC 活動実績	評価	2023 年度 RC 活動計画
社会との対話	○ステークホルダーからの評価向上を獲得し、信頼醸成を目指す。	社会との対話目標を達成するため、以下の項目を推進する。 (1)統合報告書、事業所環境安全報告書、ホームページの充実 (2)RC 地域対話、見学会など対話機会拡大の推進 (3)社外からの評価受審	(1)統合報告書、事業所環境安全報告書、ホームページの充実 ・統合報告書 2022、サステナビリティデータブック 2022、ホームページの内容を見直し、充実を図った。 ・事業所の環境安全報告書を作成し、Web サイトで公開した。 (2)RC 地域対話、見学会など対話機会拡大の推進 ・RC 地域対話及び工場見学会の開催、地元で開催される行事への参加による対話機会の拡大を計画したが、コロナ禍で開催できず、書面開催又は延期となり、事業所周辺の清掃等、限られた活動となった。 (3)社外からの評価受審 ・ISO14001 の外部審査、GHG 第三者検証、保険会社によるリスクサーベイを受けた。	☆☆☆	社会との対話目標を達成するため、以下の項目を推進する。 (1)統合報告書、事業所環境安全報告書、ホームページの充実 (2)ステークホルダーとの対話機会の拡大 (3)社外評価の積極的な受審、改善活動
RC 全般	○MGC グループ一体での環境安全活動推進を目指す。 グループ内コミュニケーションを強化し、安全・保安防災・環境経営の推進を図る。	MGC グループの事故災害情報の共有や MGC グループ環境安全推進協議会、MGC グループ環境安全監査等を通じ、一体感を持った環境安全・保安防災活動を推進する。	MGC グループの事故・災害情報の解析・活用 ・グループ会社から収集した事故・災害情報を、グループ会社で共有し、MGC グループ社長会で報告、展開した。 MGC グループ安全成績の向上 ・MGC グループ会社の監査時に保安防災ガイドラインを用いて評価を行い、弱点の改善を促した。 MGC グループ環境安全推進協議会、監査、担当者連絡会議等の実施 ・MGC グループ環境安全推進会議、グループ会社の査察、監査、担当者連絡会議で情報交換を行い、グループ会社の支援を行った。	☆☆☆	MGC グループの事故災害情報の共有や MGC グループ環境安全推進協議会活動等を通じ、一体感を持った環境安全・保安防災活動を推進する。
	○RC 管理システムの継続的な改善を図る。	環境安全会議、環境保安室長会議、LINK リーダー会議、RC 監査等により RC 管理システムの継続的改善を図るとともに、RC 活動を通じ人材の育成を図る。	RC 活動における各部門との連携強化 ・環境保安室長会議、生産技術部会、LINK リーダー会議で情報交換と良好事例の紹介を行った。		各種監査、各種会議等を改善の機会とし RC 管理システムの継続的改善を図り、併せて RC 活動を通じ人材の育成を図る。

※1 休業災害であって、死亡災害、永久労働不能災害を伴うなど障害補償の対象となった又はその可能性のある障害、休業日数が4日以上であるもの

※2 地域に係る環境汚染や地域住民が被災するなど第三者に脅威を与える事故、重大労災を伴う事故

※3 最終処分量/廃棄物発生量